

ひろしまの 土地改良

2011年
第227号



第6回ひろしまの農村フォトコンテスト入選作品 「里の秋」 木田 英子

Contents

笑顔・元気 かがやく大竹 大竹市

3.11 東日本大震災復興支援 水土里の集い

広島県だより

土連だより

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2011 入選作品

水土里情報センターからお知らせ

土地改良事業計画の調査・報告書作成業務

第10回ひろしまの農村フォトコンテスト 作品募集

秋

笑顔・元気 かがやく大竹

～地域産業を充実・拡大し、チャンスの多いまちをめざして～



大竹市長 入山 よしろう 欣郎

●はじめに

大竹市は、広島県の西端に位置し、北は廿日市市、東は瀬戸内海、南と西は小瀬川を挟んで山口県岩国市と和木町に接し、面積78.57km²、人口は約2万9千人のまちです。

昭和29年の市制施行後、臨海工業都市として発展し、現在も日本有数の工業地域として発展を続けていますが、海や山にも恵まれており、漁業においては、ハマチやタイの養殖は県内一位の収穫量で、カキ養殖やイワシ網漁も盛んです。山間部ではロッククライミングのメッカである三倉岳県立自然公園をはじめとして山登りにも多くの方が訪れます。



工場地帯の夜景

また、古くから和紙の里としても知られており、主に地元産のコウゾを使用した和紙の手がき鯉のぼりが民芸品として人気があります。



和紙の手がき鯉のぼり

●ほ場整備事業の概要

古くから栗を栽培してきたことから「栗谷」とよばれるようになった栗谷地区は、三倉岳の麓をはじめとした農業地帯で、栽培されたお米は、良質な水と水はけのよい水田で栽培された美味しい米として知られています。



栗谷地区の栗

この栗谷地区で、豊かな自然と調和した農村づくりを目指して、平成元年から平成18年にかけて、4集落であわせて28.8haのほ場整備を実施しました。なかでもオオサンショウウオの生息が確認されている集落では、生息環境に配慮した河川の護岸整備を実施し、ほ場整備後もオオサンショウウオが生息できるように巣穴を作るなどしています。



オオサンショウウオの生息する河川の護岸

現在大竹市に集落法人はありませんが、整備されたほ場を生き、豊かな自然に囲まれた栗谷地区で、大竹市で初となる集落法人化に向け検討を続けています。

●自然体験型レジャー発信基地 「マロンの里」

都市と農村の交流拠点として、栗谷地区に平成12年にオープンした「マロンの里」。周辺観光地には三倉岳、蛇喰磐じゃくいいわなど自然を満喫できる場所が数多くあり、「マロンの里」は自然体験型レジャー発信基地として、多くの方にご利用頂いています。



マロンの里



「マロンの里」には、地元の新鮮な野菜や民芸品などを販売する直売所、地元の農産物を活かしたレストランがあります。



直売所の様子

マロンの里の交流館には農産物調理実習室も備えており、とうふ作りやこんにやく作りを体験できる教室（要予約）も開催しています。また、研修室やホールでは、地域の方々の写真や俳句を展示したり、陶芸教室を開催したりするなどさまざまな視点から都市と農村の交流の輪を広げています。



こんにやく作りの様子

屋外には、芝生広場や植物探勝ゾーンがあり、川遊びやバーベキューをしながら家族で遊ぶことができ、春や秋にはまつりを開催するなど、市内外から多くの方が訪れています。

マロンの里内のレストラン「レストランみくら」では、地元の自治会連合会女性部が運営しており、地元の食材を生かしたメニューづくりをおこなっています。

おすすめメニューは「みくら定食」「マロンソフト」で、栗谷のきれいな水と新鮮な野菜がふんだんに使用されており、人気メニューとなっています。

今後も、「訪れてよかった」「また訪れたい」と思っただけのよう、食を通じ、遊びを通じ、伝統文化の承継を通じ、地域とともに農村の魅力を発信していくことが重要だと考えています。



休耕地を利用し、耕した畑

●「おおたけの特産品」を開発・販売中！

大竹特産ゆめ倶楽部は、大竹市内の異業種の5事業所で構成されるグループです。大竹商工会議所 大竹地域産業センターのグループとして発足し、新商品や特産品等の開発・研究を目的に活動を行ってきました。

大竹特産ゆめ倶楽部は、平成22年度及び平成23年度において、広島県雇用創出基金事業「特徴ある地域産品創出事業」を大竹市から受託しています。

広島県雇用創出基金事業は、地域内でニーズがあり今後の地域の発展に資すると見込まれる事業のうち、その後の事業継続が見込まれる事業を地方公共団体が計画し、民間企業等に事業を委託。その民間企業等が求職者を新たに雇い入れることにより雇用を創出する事業です。

大竹市における広島県雇用創出基金事業「特徴ある地域産品創出事業」は、主に農業分野において本市独自の特徴ある地域産品を創出するための事業を行っています。

具体的には、平成22年度から、大竹市栗谷町谷尻地区内の休耕地を借り受け、トラクターや耕うん機等により畑として整備し、トウガラシ、ハクサイ、ダイコン、ニラ、シシトウ、ジャンボニンニク、ダイズ等多種多様な野菜類等を植え付け、収穫しています。それら地元での食材を中心に「広島かきみそラー油」等を大竹市の特産品として開発し、販売を始めました。

今後も、地元で栽培した野菜類などをもとに、新たな商品開発に取り組んでいく予定です。



とうがらし畑



広島かきみそラー油

●おわりに

大竹市では、平成23年3月策定の総合計画において、本市の将来像を「笑顔・元気・かがやく大竹」とし、地域産業を充実・拡大し、チャンスの多いまちをめざしています。

まだまだ規模は小さいですが、地域の方々が知恵を出し合いながら、大竹の魅力をいっぱい詰め込んだ、さまざまな取り組みがされています。このような取り組みがもっと広がるようなまちづくりを今後も目指していきます。

3.11東日本大震災復興支援 水土里の集い

～第34回全国土地改良大会 in みやぎ～

第34回全国土地改良大会inみやぎが、平成23年10月20日（木）13時30分から『復興へ 土地改良の底力を！がんばろう東北・日本』をテーマに、仙台国際センター大ホールで開催されました。3.11東日本大震災により未曾有の被害を被った東北をはじめ、東日本地域並びに水土里ネット及び会員に対して、全国の水土里ネット仲間が情報、意識を共有して早期の復旧、復興に向けて一体となり取り組むとともに、防災対策を含む今後の農業農村整備事業の更なる推進を確認することを目的に開催されました。

最初に東日本大震災で亡くなられた方へ哀悼の意を表し、黙祷をささげ、開催県の水土里ネットみやぎの伊藤会長、主催者の全国水土里ネット野中会長の挨拶の後、続いて行われた土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰、農林水産省農村振興局長表彰、全国土地改良事業団体連合会長表彰の各賞の受賞者が紹介されました。広島県からは前大崎上島町長 藤原正孝氏が全土連会長表彰を受賞されました。



野中全土連会長挨拶



大会出席者



受賞者 藤原 正孝氏

被災報告と復興への取り組み（宮城県）、被災報告（宮城県、岩手県、福島県、茨城県）や復興についての基調報告、基調講演の後、農地や土地改良施設の早期復旧・復興に全力で取り組むことを、被災地東日本・東北・みやぎの地から宣言し、閉会しました。



大会宣言



被災状況のようす



広島県だより

●平成23年度 橋梁保全対策に係る技術研修を開催

平成23年8月5日（金）、計画的な橋梁保全対策の必要性の周知及び橋梁耐震補強工法の知識の習得を目的として、尾道農林事業所と農業基盤課の共同で橋梁保全対策に係る技術研修を開催しました。



向島大橋 全景

【研修内容】

○午前：尾道農林事業所にて概要説明

豊田尾道農林事業所次長の挨拶の後、農道保全対策に係る事業制度、総務省の改善勧告、向島地区の全体概要及び工事概要の説明を行いました。

○午後：向島大橋工事現場にて現地研修

橋梁上部耐震補強工事の受注者である日立造船株式会社の協力により、バキュームブラスト(飛散防止のため、研削材と塗膜を吸引しながら、研削材の吹付けにより塗膜を剥離する工法)、トルシア形高力ボルト・高力ワンスайдボルト(締付による摩擦力で接合させるボルト、2種類)の施工実演、橋梁上部鋼材の当板補強の施工状況確認を行いました。



概要説明の状況



バキュームブラストの実演



高力ボルト締付の実演



橋梁鋼材の当板補強の状況

広島県と県内市町、広島県土地改良事業団体連合会職員から総勢37名の参加があり、研修時間ぎりぎりまで参加者から質問が出されるなど、今後の農道保全対策の実施に向け、充実した研修となりました。

● 「ため池緊急点検調査」の概要（中間報告）について

広島県では、局地的な豪雨や大規模地震の発生など、ため池の安全性を脅かす自然災害の頻発を受け、現在置かれているため池の状況を把握し、管理者の方々に適切な措置を講じていただけるよう「ため池緊急点検」を平成22・23年度の2カ年で実施しています。

今回は、2カ年の調査期間のうち1年目の平成22年度調査結果について、概要を報告します。

1) 調査対象

広島県には、約2万箇所のため池があり、そのうち貯水量が1,000 m^3 以上のため池は4,932箇所あります。この4,932箇所について、平成12・13年度に改修の必要性を調査した結果2,166箇所で何らかの改修が必要と判定されましたが、このうち、未だに対策の取られていない1,694箇所について、平成22年度に調査を行いました。

【広島県全体：20,183箇所】

【1,000 m^3 以上：4,932箇所（H12・13調査）】

【当面改修不要(前回)：2,766箇所】

【H23調査予定：2,766箇所】

【要改修(前回)：2,166箇所】

うち 改修済：472箇所

【H22調査済：1,694箇所】

【1,000 m^3 未満：15,251箇所】

2) 調査内容

堤体からの漏水、洪水吐の損傷などのため池の状況（老朽度）と仮に決壊した場合に影響を受ける下流の状況（影響度）を調査しました。

3) 調査結果の概要

広島県独自の判定基準に基づき評価した結果は次のとおりです。

区分		カ所数
老朽度（A）	高	109
老朽度（B）	↑	891
老朽度（C）	低	694



老朽度（A）の事例

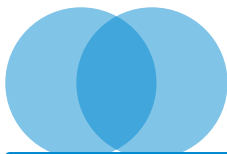
区分		カ所数
影響度（Ⅰ）	大	262
影響度（Ⅱ）	↑	508
影響度（Ⅲ）	小	924



影響度（Ⅰ）の事例

4) 今後の対応

本年度、前回調査で当面改修が不要と判断したため池（2,766箇所）の調査を実施し、2カ年の調査結果に基づき、放置しておくことと甚大な被害を引き起こす可能性のあるため池について、ため池管理者の皆様と情報共有を図り、早期の改修や適切な維持管理に努めていただきたいと思います。なお、改修の検討に当たっては、各市町役場若しくは最寄の農林水産事務所農村整備（第1）課にご相談ください。



土連だより

●福山市土地改良区役員・総代研修を開催

平成23年8月5日（金）、福山市農業協同組合本所会議室において、福山市土地改良区役員・総代研修会が開催され、福山市土地改良区の役員・総代約100名が出席しました。

開催にあたり羽田理事長（福山市長）が挨拶された後、別記のテーマで進められ、土地改良区の組織・運営や、組合員の義務を再認識された研修会となりました。



羽田理事長（福山市長）挨拶



研修のようす



児玉次長



小田課長

研修課目	講師
土地改良区について～役員・総代の役割～	広島県土地改良事業団体連合会 総務部 次長 児玉 雅彦
土地改良区合併の経緯について	福山市土地改良区 常務理事 小山 保育
ため池管理、集落法人の設立と運営支援について	福山市農林土木部農林整備課 課長 小田 朋志

●広島県土地改良事業団体連合会平成23年度第1回理事会開催

8月23日（火）、広島県土地改良会館で平成23年度第1回理事会が開催されました。開会にあたり羽田会長（福山市長）が「昨年度に引き続き厳しい予算となっているが、この情勢の中においても農業の生産基盤や農村の環境基盤の整備が必要不可欠であり、農業・農村の振興と発展を図るため、本会の果たす役割は重要。」と挨拶されました。その後、議題に入り、10議案についていずれも原案どおり承認されました。



●農村振興技術連盟大賞の受賞について

農村振興に係る技術者として社会の発展に顕著な功績を挙げられた方へ贈られる「平成23年度農村振興技術連盟大賞」を中村 弘様（元広島県土地改良事業団体連合会副会長）が受賞されました。平成23年10月7日に、八丁堀シャンテにて、広島県農村振興技術連盟の藤本会長から表彰状が伝達され、その後祝賀会が行われました。



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2011 入選作品（広島県受賞分）

「新発見！ぼくのわたしのふるさと」をテーマに「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2011の審査会が10月6日に行なわれました。

全国から10,807点の応募があり、入賞22点、入選105点が選ばれ、広島県からは4名の方が入選されました。



「おたまじゃくしの姉妹」
門田 小都
(学校法人三光学園千鶴幼稚園 3歳)



「うしのおかあさんとあかちゃん」
栗田 莉紗
(学校法人三光学園千鶴幼稚園 4歳)



「花田植まつり」
丹土 瑞貴
(東広島市立上黒瀬小学校 6年)



「たな田の田植え」
安間 隼斗
(広島市立いずみ保育園 5歳)

田んぼの学校だより

三原市立神田東小学校では、毎年田植えから稲刈り、脱穀と農作業を体験するとともに、稲の生長や生きものを観察しています。

去る9月6日には、全校行事として稲刈りが行われました。釜を持つ手はぎこちなく、今年は雨が多かったこともあり、ぬかるみに足を取られながらの稲刈りとなりました。

3年生の曾利久珠由さんは、「私は、釜を持つのは三回目だけど、足や手などを切らないよう慎重に稲刈りをしました。昔の人達がこんなに大変な作業をやっているのだと驚きました。早く自分たちの手で作ったお米を食べたいです。」と語り「緑の穂から茶色の穂へとタイムスリップしたみたい。」と稲の生育の早さにビックリしていました。

7日には、脱穀が引き続き行われ、昔ながらの干把扱きや回転式の脱穀機などを体験しました。

4年生の中川愛美さんは、「私は、脱穀機は二回もやったけどリズムも、粉を取るのも大事だから難しかったです。何回も踏むうちにリズムが段々ととれてきたので良かったです。今は、コンバインで粉と茎に分けるけど昔の人は、脱穀機で分けていてすごい。」と話し「昔の脱穀や稲刈りはしんどいほど楽しいと分かりました。」との感想を述べてくれました。

近年は機械化農業の進展により子ども達が農作業を手伝うことが少なくなっているなか、昔ながらの農業体験は、農業の大切さや食文化の継承に役立つものと思います。



水土里情報センターからお知らせ

●広島県水土里情報利活用促進協議会総会開催

広島県水土里情報利活用促進協議会は、去る8月31日（水）、土地改良会館において平成23年度通常総会を開催しました。

開会にあたり下垣協議会会長が「整備した地図情報は有効に利活用していくことが求められている。利活用団体は172団体を目標としており、今後は会員の皆様のご理解とご協力を得ながら、農業生産法人・土地改良区への利活用の拡大を推進していきたい。」と挨拶されました。その後、各議案について慎重に審議され、承認されました。



議案

- 第1号議案 平成22年度事業報告及び平成23年度事業計画について
- 第2号議案 広島県水土里情報利活用促進協議会会員細則の制定について
- 第3号議案 水土里情報運用管理基準の改正について
- 第4号議案 役員の改選について

●地図情報の利活用について

本会は本年5月から、水土里情報利活用促進事業で整備した地図情報の提供を始めています。

9月からは農業生産法人向けに、作業計画・管理支援システム（独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構提供）の配付を始めました。このシステムは、水稻を中心とするほ場を、地番図や耕区図を使って、コンピュータで作物生産の計画から栽培工程管理まで視覚的に管理できる営農支援ソフトウェアです。

このシステムでは、土地台帳・作付台帳・種苗台帳・生育台帳・雑草台帳・栽培台帳などの台帳機能を持っており、ほ場や作付・栽培作業などの生産に関する情報を入力し、地図や一覧表に表示し印刷することができます。

【作業計画・管理支援システム画面例】



※独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構ホームページから (<http://www.aginfo.jp/>)

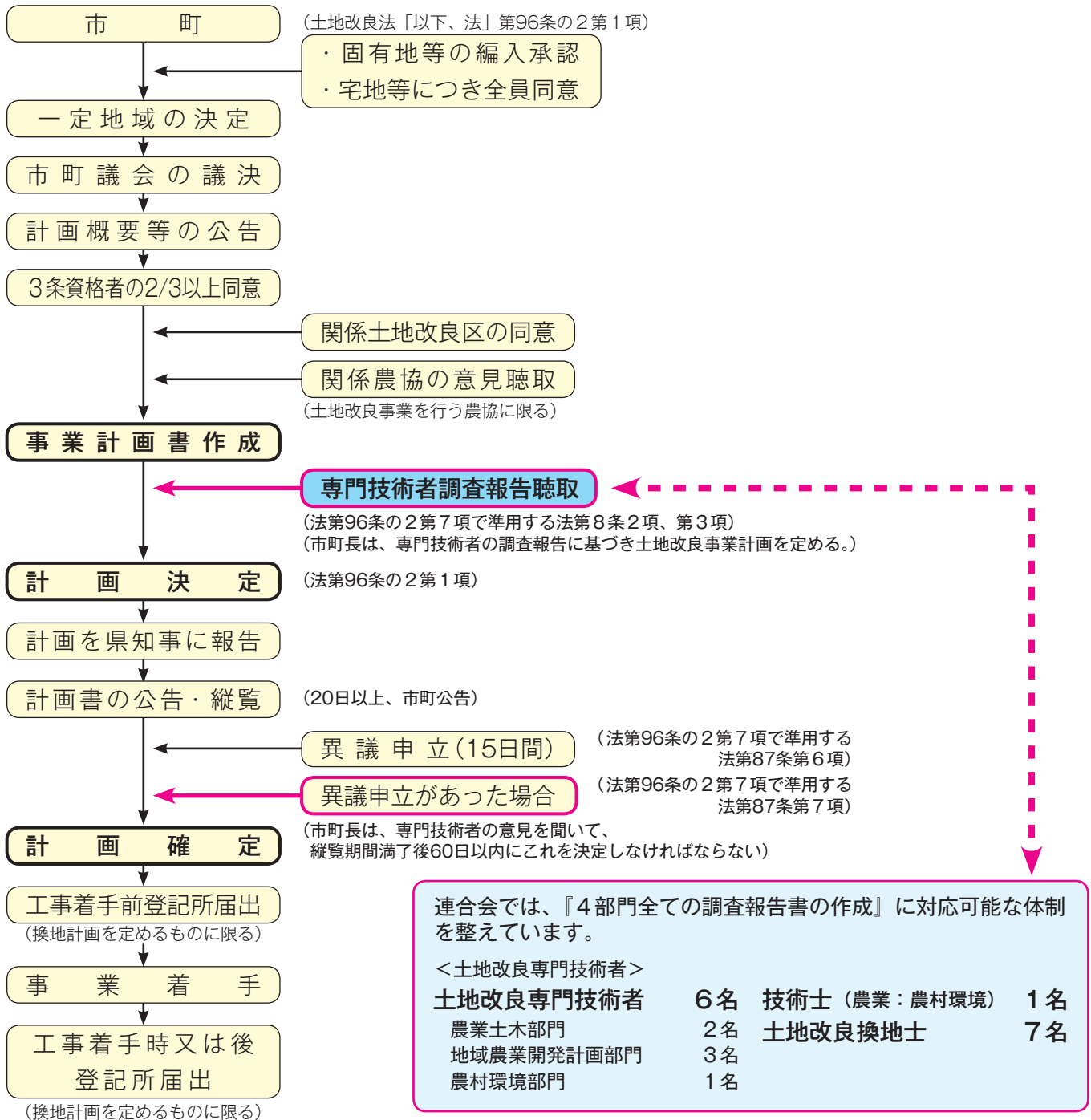
地図情報の提供は、市町・農業委員会・土地改良区などの機関へも行っています。詳しくは、水土里情報センターまでお問い合わせください。 電話082-502-7475

土地改良事業計画の調査・報告書作成業務

団体(市町)営土地改良事業における開始、変更、廃止の法手続きに必要な調査及び報告書の作成を支援します。

農林水産省令の定めによる農用地の改良、開発、保全又は集団化に関する専門的知識を有する技術者が、土地改良事業計画を調査し、報告書を提出します。

◆例：団体(市町)営土地改良事業の開始フロー（土地改良法の一部改正：平成23年11月30日施行）



電話でご相談ください。
担当窓口：換地測量支援課 電話082-502-7477

新しいことが、 育つとるけん。

第10回

ひろしまの農村 フォトコンテスト

「新しい農業・農村のちから」 「^{みどり}水土里あふれる景色」

広島県内の農業、農村地域の魅力を写真を通して広く県民のみなさんに知っていただくため、今年度は以下のふたつのテーマで作品を募集します。

テーマ①「新しい農業・農村のちから」

挑戦する就農者、新しい取り組み、力強い農業・農村の「今」を伝えるもの

テーマ②「水土里(みどり)あふれる景色」

いつまでも残したい美しい風景や景観、伝統文化などを伝えるもの



■表彰

■テクニカル部門
最優秀賞 各テーマ1点ずつ 優秀賞 各テーマ1点ずつ

■ファミリー部門
特別賞 15点程度(テーマ①テーマ②の合計)

■応募資格

広島県に在住・もしくはお勤めの方(プロ・アマ不問)
※特にファミリー部門は初心者大歓迎です。

■応募規定

テクニカル部門:2Lサイズから四つ切(ワイド四つ切可)まで
ファミリー部門:電子データ(Jpg,PDFで2メガバイト以下)
もしくはプリントアウトしたもの

応募先・応募方法の詳細は裏面をご覧ください

初心者大歓迎!

— ファミリー部門を新設しました —

応募締切 平成24年2月17日(金)まで
(当日消印有効)

審査 平成24年2月下旬 表彰式 平成24年3月上旬を予定

作品展示 ひろしま夢ぷらざ等を予定

主催 ひろしま農業農村整備広報委員会
(広島県・広島県土地改良事業団体連合会)

後援 中国新聞社・NHK広島放送局・中国放送・テレビ新広島・広島テレビ・
広島ホームテレビ・株式会社日本農業新聞中国四国支所・広島県農業協同組合
中央会・棚田ネットワーク中国・株式会社シグマ広島



住みやすく豊かな村づくり
みどり
水土里ネットひろしま

季刊 ひろしまの土地改良 第227号

■平成23年11月1日
編集:ひろしま農業農村整備広報委員会
発行:広島県土地改良事業団体連合会
〒730-0017 広島市中区鉄砲町4-1 広島県土地改良会館
■TEL (082) 502-7470 ■FAX (082) 502-7480
■http://www.hdn.or.jp
■印刷:佐々木印刷株式会社